

【徳島県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
阿波市	吉野川北岸	若手農業者が先導する新規作物の導入と産地づくり	1	H28.12	2
鳴門市	里浦	「里むすめ(なると金時)」のブランド化と輸出への挑戦	2	H30.03	4
海部郡海陽町	海部	ほ場整備後の農地を活用した「きゅうりタウン構想」の展開	3	H31.03	5
鳴門市	大麻	れんこんのブランド産地化に向けた取組	4	R3.03	7
吉野川市	塚池	ため池の防災工事による「流域治水」対策の推進	5	R4.03	8
阿波市	美納池・池下	「基盤整備」+「高度環境制御栽培施設」+「企業誘致」の取組	6	R5.03	9
吉野川市	塚池	ため池整備による堤体の決壊リスク軽減と監視体制の強化	7	R6.03	10

【工夫のポイント】

- 安定した農業用水を利用した高収益作物の導入によって**水稲と野菜を組み合わせた周年栽培を実現**。
- **地域の若年層グループを中心とした直売や販路開拓**などによるブランド化を通じて**新たな導入品種である美～ナス(白ナス)の販売額が向上**。
- 関係者の連携による**栽培技術の伝承と後継者の育成**にも取り組む。

基盤

かんがい施設の整備による 労力の軽減と品質・収量の安定化

かんがい排水事業により、安定的かつ自由な水利用が可能となったことで、かん水に係る労力の軽減や高収益作物の導入による営農の多角化が実現。



基盤整備 (S46年～H元年)

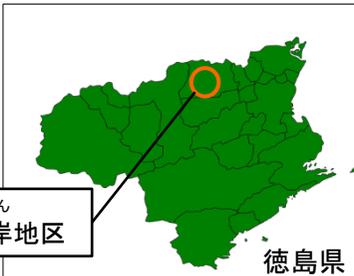
【整備前】

谷水や湧水等に頼る**不安定な取水状況**や用水不足による作物品種・収量の不安定さから施設栽培や高収益作物の導入に踏み切れずにいた。



【取組地域の概要】

- 位置 あわし
徳島県阿波市 (特定農山村等)



- 傾斜
・約1/20程度
- 主要作物
・レタス・ナス・ミニトマト
- 主な支援施策
・国営かんがい排水事業(S46～H元)
・強い農業づくり交付金(H26)
・多面的機能支払交付金(H19～)
・中山間地域等直接支払交付金(H12～)

生産現場

水稲と野菜の周年栽培体制の導入



- 農業用水の安定供給により、**早期米(早生品種)と裏作の高収益作物を組み合わせた周年栽培**を導入。
- 品質維持のための栽培農家の限定や、品質向上に向けた勉強会による栽培技術の共有にも取り組む。

加工・流通

販路開拓等による地域ブランド化の推進



- 「美～ナス」を地域ブランドとして定着させるため、地域の産直市で販売。
- **若手農業者を中心として、インターネットや関西圏への独自の販路開拓**を推進。ブランド化の取組と合わせ、市場における知名度の拡大にも取り組んでいる。

担い手

「農業後継者クラブ」による若手農業者の育成



- 若手農業者を中心とした**農業後継者クラブを創設**。
- 市では農業後継者クラブを阿波市農業関係者連絡会の構成員とし、**若手就農者の育成**にも力を入れる。

若手農業者が中心となったブランド化 による生産量及び販売額の向上

- 水稲と野菜の周年栽培を可能とする基盤整備や、**若手農業者から組織される町づくりグループ「GOTTSO阿波」が中心となった販路開拓**を通じて、新たな地域ブランドである「美～ナス」の生産販売額が向上。



【工夫のポイント】

- 基盤整備を通じた用水の安定供給により労力の軽減が図られたほか、**甘藷の安定生産や品質向上、計画的な栽培**等が実現。
- JA里浦「里むすめ」生産者部会により**減農薬栽培の実践やトレーサビリティの導入**を通じた「安全・安心」な産地づくりによる消費者の信頼向上。
- **香港、台湾、シンガポールなどへの輸出**を通して新たな販路を拡大。

【取組地域の概要】

○位置 なるとし
徳島県鳴門市

徳島県



さとうら
里浦地区

- 主要作物
・さつまいも、だいこん
- 主な支援施策
・国営総合農地防災事業(H3~)
・県営畑地帯総合整備事業(H元~H21)
・多面的機能支払交付金(H19~)

基盤

かんがい施設の整備を通じた用水の安定供給による労力の軽減と品質・収量の安定化

畑地かんがい施設の整備により、かんがいに要する労力が軽減されたほか、農業用水を安定的に供給することが可能となり、品質向上や収量安定が図られた。



吉野川の水を取水(国営)



スプリンクラーによるかん水(県営)

基盤整備 (H元年~)

【整備前】

本地域は、**水源がなく天水に頼る栽培**のため、**少雨時には水不足**に悩まされ、また遠方から用水を運搬するなど用水確保に労力を要し、**安定した農業経営ができない**状況にあった。



やかんを用いたかん水

生産現場

減農薬等による「安心・安全」な産地づくり

- 土質に恵まれ、海砂に含まれる塩分を吸収することで、良質なかんしょが生産。また、**フェロモントラップの導入**や**一斉防除**等により**農薬散布量を低減**。さらに**トレーサビリティ体制**の確立を通じた安全・安心な産地づくりに地域一体で取り組む。
- JAが中心となった**優良系統の選抜**により、高いブランド力を保持。



フェロモンによる病害虫駆除

加工・流通

ブランド戦略の確立と海外への販路拡大

- 京浜、京阪神市場で最高峰ブランドを確立するとともに、香港、台湾、シンガポールなど**海外にも販路を拡大**。
- 地元メーカーを中心とした**焼酎や菓子用などの加工向けの販路**を拡大。



台湾での販路拡大

地域ブランドの確立による販売額の増加

- 基盤整備による営農条件の改善に加え、ブランド戦略による販路拡大により、農家1戸当たりの**販売額及び所得が増加**。

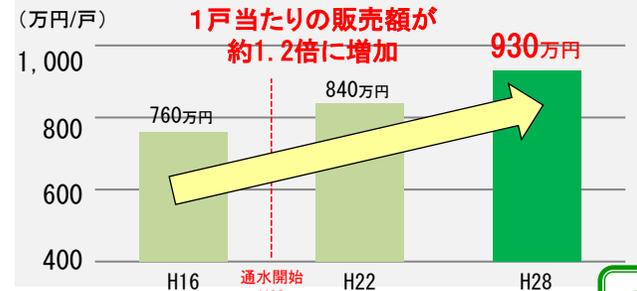


【JA里浦における「甘藷」の農家1戸当たり平均販売額】

約760万円/戸(H16) → 約930万円/戸(H28)

【「甘藷」の農家1戸当たり平均所得額】

約640万円/戸(H16) → 約780万円/戸(H28)



【出典：里浦農業協同組合通常総会資料より算出】

【工夫のポイント】

- ほ場整備後の農地を活用して、促成きゅうりを核とした移住就農による地域の活性化を目指す「きゅうりタウン構想」(*)を推進。
- 儲かる農業の実現により、Iターン者を含む新規就農者を確保し、産地が自立的に維持・発展。

※ きゅうりタウン構想

新規就農者育成のため、海部きゅうり塾による営農指導や次世代園芸技術の導入などにより、きゅうりの生産拡大を核とした地域活性化構想。

【きゅうりタウン構想の目標値(H27→H36)】

- ① 産地面積 5.6ha → 10ha
- ② 収量 20t/10a → 30t/10a
- ③ 所得(30a) 690万円 → 1,000万円以上

【取組地域の概要】

- 位置 かいふぐんかいようちょう
徳島県海部郡海陽町(過疎、山村等)



- 主要作物
・水稲、キュウリ、オクラ、洋ニンジン等
- 主な支援施策
・経営体育成基盤整備事業(S62~H13)
・農免農道整備事業(H元~H6)
・農業基盤整備促進事業(H29)

基盤

区画整理や道・排水路整備により「きゅうり生産団地」を造成

- 区画の整形・拡大、農道や排水路の整備により、促成きゅうり生産団地の造成が可能に。



促成きゅうり生産団地

基盤整備

(S62年~H18年)

【整備前】

農地は小規模かつ不整形であり、農道も狭小。また、排水不良であることから、稲作中心の作付け体系から脱却できなかった。



区画が狭小で不整形



排水不良の農地

生産現場

レンタルハウスによる次世代施設園芸の展開

- 新規就農者の自立に向け、JAかいふがレンタルハウスを整備・提供(3年間程度)。
- 土作りが不要な養液栽培方式を採用。



レンタルハウス



養液栽培の様子

担い手

新規きゅうり農家の確保と育成

- 海部きゅうりライフ(半農半X)の魅力発信による新規就農者の確保(移住フェア、CM)
- 新規きゅうり農家を育成する「海部きゅうり塾」の開講(座学と研修ハウスでの実習)



JAバンク全国CM



きゅうりで「働き方改革」
“半農半X”の実践!

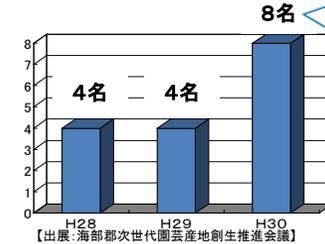


きゅうり塾での座学

新規きゅうり農家の増加と経営の自立

- 新規きゅうり就農者の増加(就農システムの確立)
・「海部きゅうり塾」で1年間の研修 自立までのサポート体制
・レンタルハウスでの栽培実践(3年間程度)
・自前のハウスで自立営農(将来目標)
- 3年間で16名の新規就農者を確保。うち10名がIターン者であり、Iターン者の子供10名も同時移住。

<新規きゅうり就農者の推移>



[出展:海部郡次世代園芸産地創生推進会議]



H30新規就農者

地区平均所得200万円
初年度から平均額超え

- H28就農者が所得260万円を達成し、経営が自立。きゅうりで自立できる仕組みを形成し、産地が維持・発展。

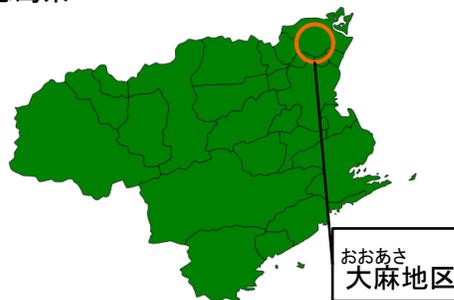
【工夫のポイント】

- 環境保全型農業の取組と併せ、基盤整備による農業用水の水質改善、水管理の省力化により、**れんこんの品質向上や収量増**を実現。
- 「コウノトリおもてなしれんこん」として、**ブランド化や6次産業化**を推進。
- れんこんのブランド化と併せて、新規参入者に対する技術習得のための研修を行い、**地域の担い手を育成**。

【取組地域の概要】

○位置 なるとし
徳島県鳴門市

徳島県



おおあさ
大麻地区

○主要作物
・れんこん、なし等

○主な支援施策

- ・国営総合農地防災事業(H3~)
- ・地盤沈下対策事業(H3~)
- ・国営附帯県営農地防災事業(H26~)

基盤

かんがい排水施設の整備による 労力の軽減と品質・収量の安定化

かんがい排水施設の整備により、かん水に係る**労力の軽減**や高収益作物の**安定した品質・収量**により、経営が安定化。



各ほ場に設置された給水栓



水質改善された用水

基盤整備
(H3年~)

【整備前】

地域内の水路の多くが**用排兼用**であり、都市化の進展や下水道整備の遅れ、地盤沈下による排水不良等により**水環境が急速に悪化**。



地区内を流れる水路



動噴による給水

生産現場

「とくしま特選ブランド」の栽培を促進

- 環境保全型農業の取組に加え、良質な農業用水の安定供給により、とくしま特選ブランドの「れんこん」をはじめとした農産物の**品質向上や収量増**を実現。



地域の取組

コウノトリと共生した農業推進

- 環境保全型農業による農業振興と地域活性化に向け、「コウノトリおもてなしれんこん」を**ブランド化**。
- 主に関西市場に出荷されていた全国第2位の生産量を誇る徳島県産れんこんを、**関東市場に出荷を開始**。



コウノトリとれんこん田

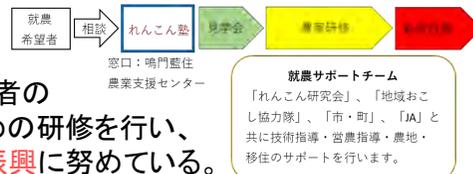


H29.9月東京初出荷

「れんこん塾」による担い手の育成

担い手

- 県、市、JA、地域おこし協力隊、地元農家が**一丸となり**、新規参入者の受入れ、技術習得のための研修を行い、**担い手確保による産地振興**に努めている。



地域の取組と基盤整備が 一体となった収益力の向上

- 環境保全型農業の取組と併せ、農業用水の水質改善、水管理の省力化により、れんこんの**単位収量や出荷量の向上**に寄与。



【出典：平成28年~29年 徳島県農林水産統計年報】

- 更なる省力化、収量増に向け、IoTを活用した「**スマート技術**」を取り入れた**営農体系**の実証プロジェクトを開始。



ドローンによる
農業散布実演状況

【対策のポイント】

- つか
○ 塚池は、貯水量が12.9千 m^3 であり、農地11.5haに用水を供給。
- 下流直下に住宅や地域の幹線道路である市道が存在し、決壊時に大きな被害のおそれがあるため早急な対策が必要。
- このため、3か年緊急対策において、洪水吐と堤体の改修を実施。

【取組地域の概要】

- 位置
よしのがわし
徳島県吉野川市

つかいけ
塚池

徳島県



- 主要作物
・水稲

基盤

ため池の防災工事を実施中

- 3か年緊急対策において、洪水吐の排水能力アップと堤体の嵩上げを実施。



基盤整備

(H30～R3)



ため池改修による「流域治水」対策への貢献

対策の効果

- 本地域は長年にわたり内水氾濫に悩まされており、治水対策が急務。
- 「流域治水」対策の取組には、農業用ため池の活用が不可欠。
- 吉野川市が土地改良区と「流域治水」に関する協定を締結(R3.3月及び5月)。
- 堤体や洪水吐の改修により、「洪水調節機能」が大幅にアップ。

農業用ため池を活用した「流域治水」対策



事業名	事業費	対策期間
農村地域防災減災事業	2億1,500万円	H30～R3
うち3か年緊急対策	1億4,500万円	H30～R2

【工夫のポイント】

- 地域農業の競争力強化を図るため、区画整理等によりスマート農業導入のための基盤を整備。
- 施設園芸企業を誘致し、スマート農業による実証と普及拠点となる高度環境制御型園芸ハウスを整備。
- 産官学連携による次世代人材育成を実施。

基盤

基盤整備の実施と吉野川北岸用水の利用による
高度環境制御型園芸ハウスの導入

区画拡大と排水改良、水質の良い用水の安定確保により、施設園芸の導入が可能となり、高収益作物の品質・収量が向上。



用水
利用



基盤整備
(R1年)

【整備前】

区画が狭小、農地に段差があったことから、広がりがある基盤の整備が必要。



【取組地域の概要】

- 位置 あわし
徳島県阿波市



みのうち・いけのした
美納地・池下地区

生産現場

高度環境制御型園芸ハウスの導入

- 高収益トマト生産モデルの実証と普及拠点として、企業が高度環境制御型園芸ハウスを整備。



加工・流通

農産物の高付加価値化(国産)の取組

- 業務用途のトマトは海外からの輸入が大半を占める中、国内大手コンビニチェーンやハンバーガーチェーンなどと取引のある商社への契約出荷を増進。



地域の取組

人材育成と地域貢献

- 次世代を担う人材育成に向け、県、市、徳島大学、参入企業等が連携協定を締結。
- 農業を魅力ある職業にすべく、市内小学生の見学を受け入れ、新しい農業の姿として紹介。



スマート農業を活用した
地域農業モデルの推進

- 担い手に農地を集積・集約するとともに、スマート農業技術の導入により生産性を向上。輸入品から国内生産へシフト。

全国平均の
3倍以上を
目標



- 県内農家を対象とした「施設園芸アカデミー」の開講により次世代の人材を育成。



- 現地採用として20名を雇用。役員2名は会社設立のため移住。



【対策のポイント】

- **ため池の堤体の幅が狭く**、地震や豪雨により**決壊するおそれ**。
- このため、耐震補強工事を実施するとともに、**洪水吐きを改修するとともに監視カメラを設置**。
- これにより、**ため池の決壊リスクが低減されるとともに、ため池の監視体制が強化**。

【取組地域の概要】

○位置
よしのがわし
徳島県吉野川市

徳島県

つかいけ
塚池



- 実施事業
・農村地域防災減災事業 (H30~R4)
 うち3か年加速化対策 (H30~R2)
 うち5か年加速化対策 (R2)

ため池のハード対策・ソフト対策

- 堤体の**拡幅・嵩上げ**を行う**耐震補強を実施**。
- **洪水吐きの断面を拡幅し**、豪雨に対応できるよう**流下能力を向上**。
- **監視カメラによる遠隔監視**を可能にしたことで**監視体制を強化**。



	整備前	整備後
堤体幅	平均2.0m	平均3.4m
堤高	5.7m	7.0m

ため池の
防災・
減災対策
(H30年
~R4年)



監視カメラの設置



	整備前	整備後
洪水吐きの幅	4.2m	5.5m

【整備前】

近年の激甚化・頻発化する豪雨や、南海トラフ巨大地震等により、**ため池が決壊し、下流の住宅等に被害が発生するおそれ**。

現況の堤体
(W=2.0m,h=5.7m)



断面が狭小な洪水吐き



堤体決壊リスクの軽減と監視体制の強化

- **堤体補強、洪水吐きの断面確保により**、豪雨や地震からため池の**決壊リスクを軽減**。
- **監視カメラ等による監視体制を強化する**など地域の**防災・減災力を向上**。

	想定被害額	影響を受ける住宅
対策なし (決壊した場合)	3.6億円	19戸
対策あり	被害なし	被害なし

遠隔監視状況



高画質型
ため池の様子



現場から離れた事務所のPCから、ため池の画像や水位の情報を遠隔で確認することが可能。



水位データ

基盤

対策の
効果